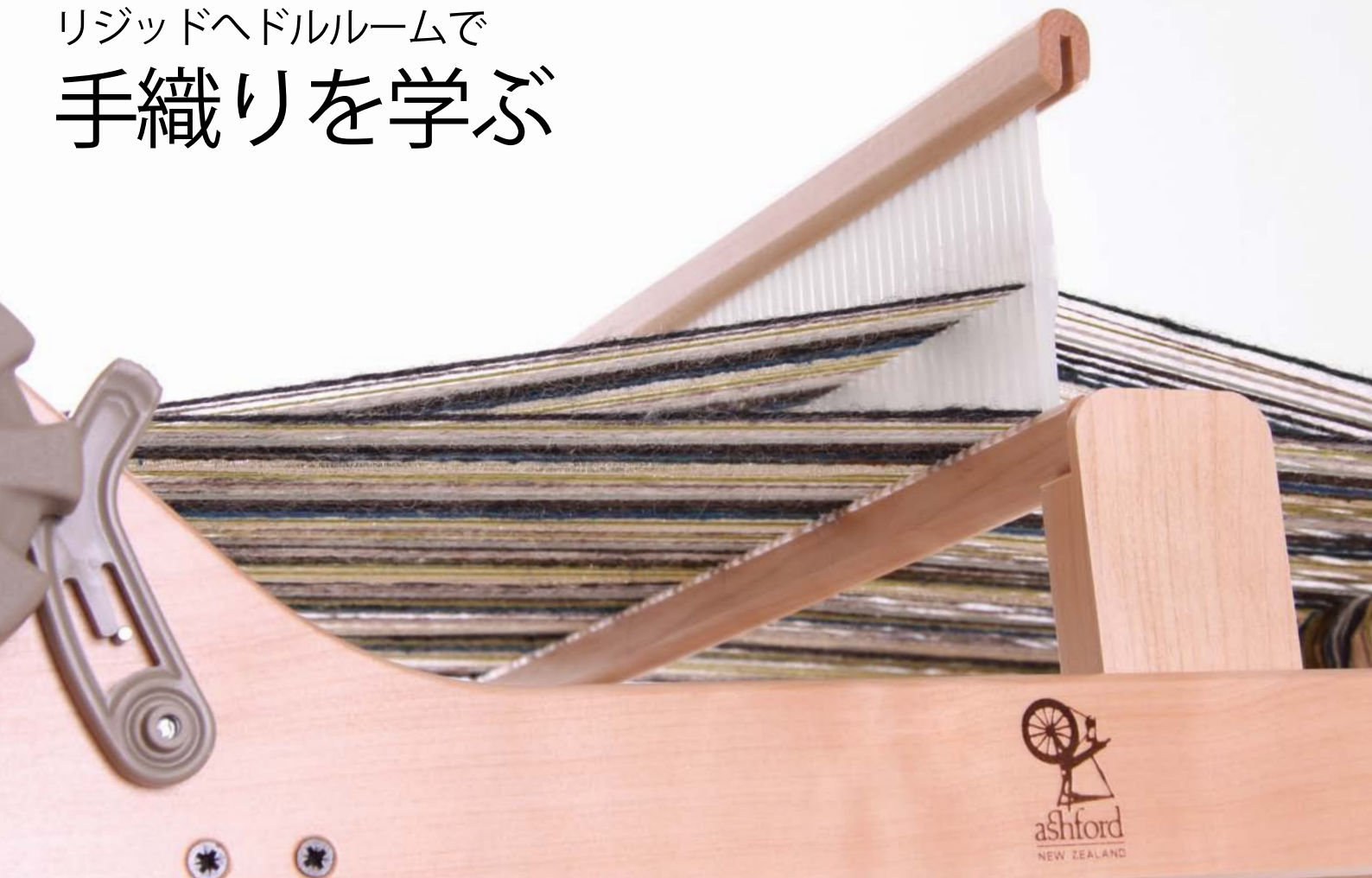


リジッドヘッドルームで  
手織りを学ぶ



**ashford**  
WHEELS & LOOMS

## ようこそ、 すばらしい手織りの世界へ・・・

### 初めてのスカーフを織る

#### 用意するもの：

よく切れるハサミ、メジャーテープ、厚紙製ワープスティック（付属）、2m以上の長いテーブルを1台、または同じ高さのテーブルを2台。

#### 使用する糸：

アシュフォードテカポ 8プライ/ダブルニット  
#05-モスx1、#024-ホワイトx1、#061-ランダムフォレストx1

この作品では、アシュフォードテカポシリーズのDK（ダブルニット）スポーツウェイトヤーンを使用します。ウール100%、1玉100g/200m。わずかに手紡ぎの風合いを残したなめらかな糸です。たて糸、よこ糸共に、上の3色をストライプに使います。

#### たて糸について：

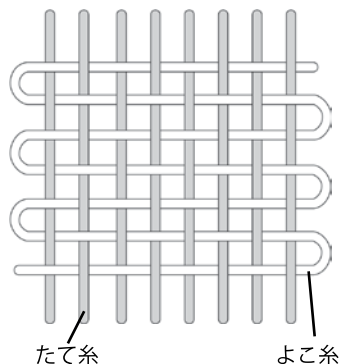
たて糸の長さ = 約2m（両端23cmずつのフリンジ分を含む）

たて糸の数 = 84本

仕上がり幅 = 28cm

### たて糸とよこ糸

まず、全ての織りの基礎となる2つの用語を覚えましょう。最初に、はたの前と後ろのローラーの間に張られるのが「たて糸」です。そのたて糸の上下を交互にくぐりながら、織物の端から端まで通っているのが「よこ糸」です。



### アクセサリー

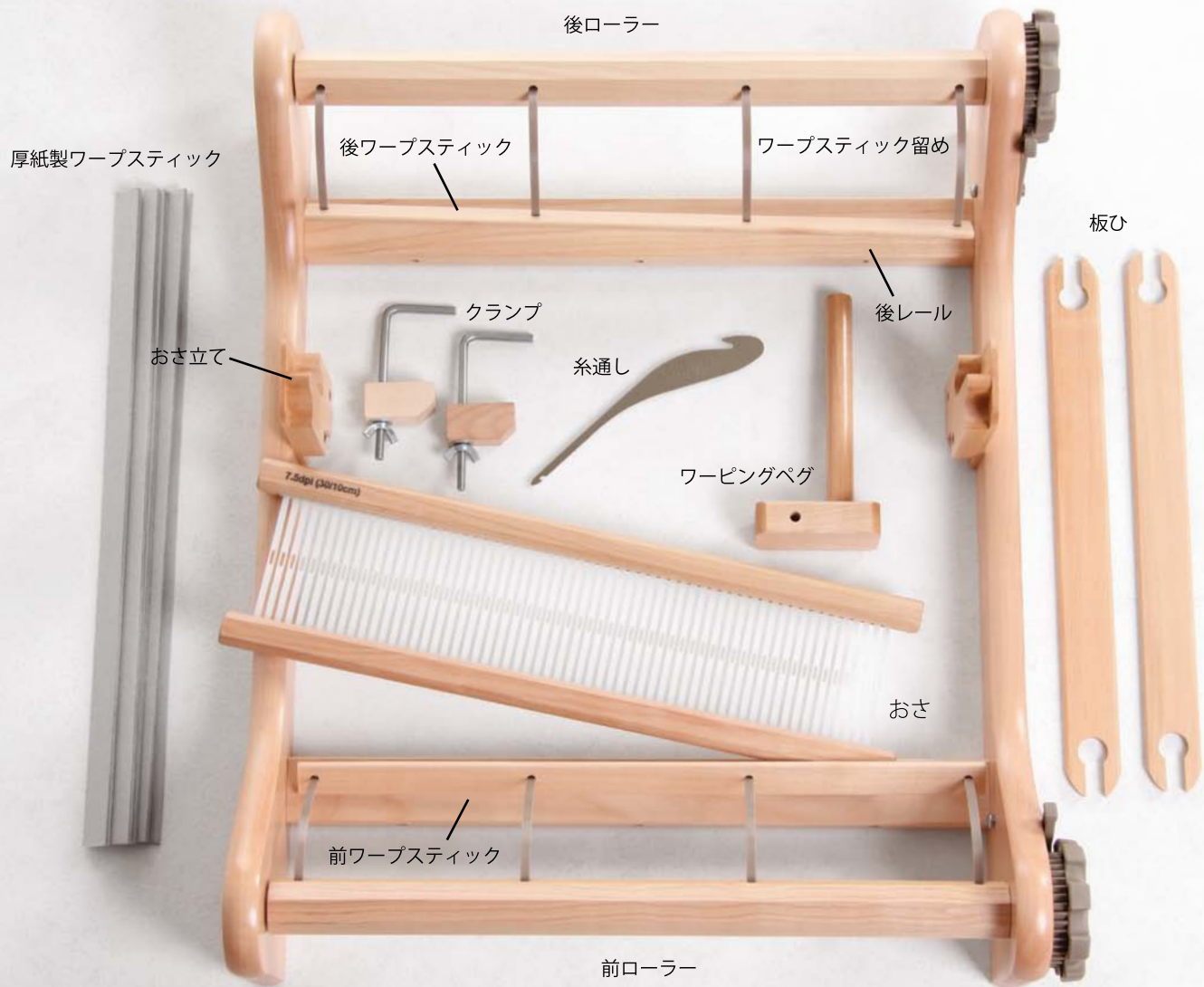
おさ - 20、30、40、50羽/10cmを使えば、色々な糸を使って、ほとんどどんな作品でも織ることができます。

ルームスタンド - 丈夫なフレームに両側の棚と、足置きが付いています。40cm、60cm、80cmの3種類の幅があります。



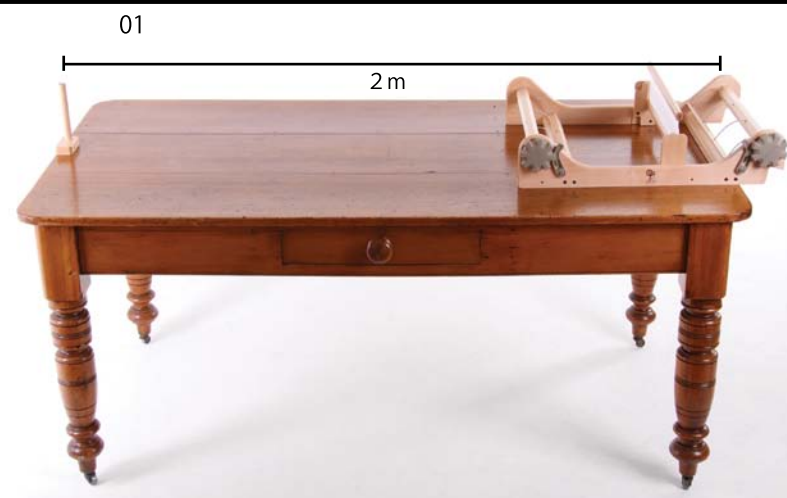
セカンドヘドルキット - さらに多くの織り方を楽しめます。





## このはたについて

おさには、たて糸を通すための穴とすき間が交互に開いていて、それがよこ糸を通す口をつくります。また、通したよこ糸を打ち込む役割もあります。このおさには、10cmあたり30本の糸が通る様になっています。板ひは、よこ糸を縁から縁に渡し、織物にしていくために使います。ワーピングペグ、糸通し、2つのクランプは、はたにたて糸を張るときに使います。



長いテーブル、または2台のテーブルのそれぞれの端に、はたとワーピングペグを配置して、その距離が2mになるようにします。はたの底面に切れ込みがある方（はたの後ろ）を外側にして、後ローラーから測ります。



後レールの真中の穴にクランプを差し込んで、はたをテーブルにしっかりと固定して下さい。



底面に切り込みのある方が、はたの後ろになります。前後のブレーキはかかっている状態にしておきます。



テーブルの反対側にワーピングペグをしっかりと固定します。（テーブルが薄すぎてクランプのねじ山が足りない場合は、クランプを穴に差し込まずに、ペグの土台全体を上から挟むように留めて下さい）





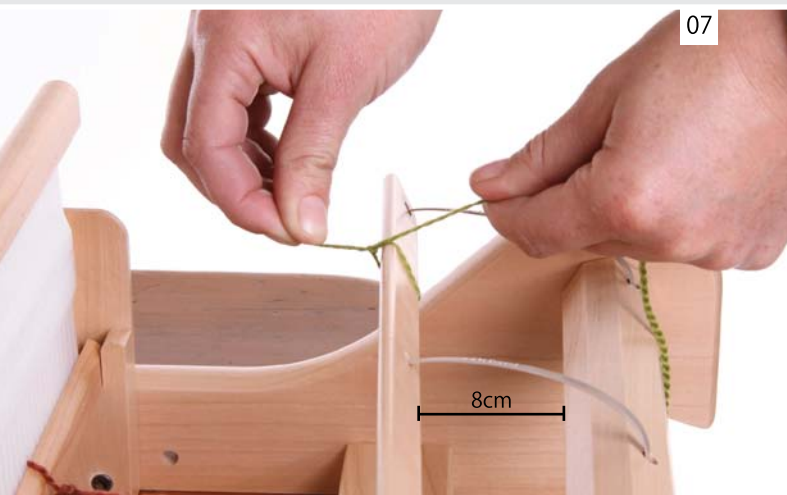
05

おさ立てにある、おさを上下させるための3つの位置、「上げ位置」「下げ位置」「休み位置」を確認しておきます。



06

おさを「休み位置」に置き、今回の作品のたて糸の範囲に目印を付けます。おさの端からすき間を数えて、40cmモデルの場合は9番目、60cmなら24番目、80cmなら39番目に、目印の糸を結んでおきます。



07

今回のたて糸は84本ですので、まず42のすき間に2本ずつ糸を通します。たて糸の最初の端は、おさの目印の後ろでワープスティックに結びます。この時、ローラーとワープスティックの間が、約8cmになるようにして下さい。



08

目印の糸を通したすき間に、糸通しを使って最初の糸を通します。



おさを通した糸を、そのまま引っぱってワーピングペグ  
にかけます。たて糸を巻いた毛糸玉は、糸を引く度に転  
がり回らないように、なにか入れ物に入れて床に置いて  
おくと良いでしょう。



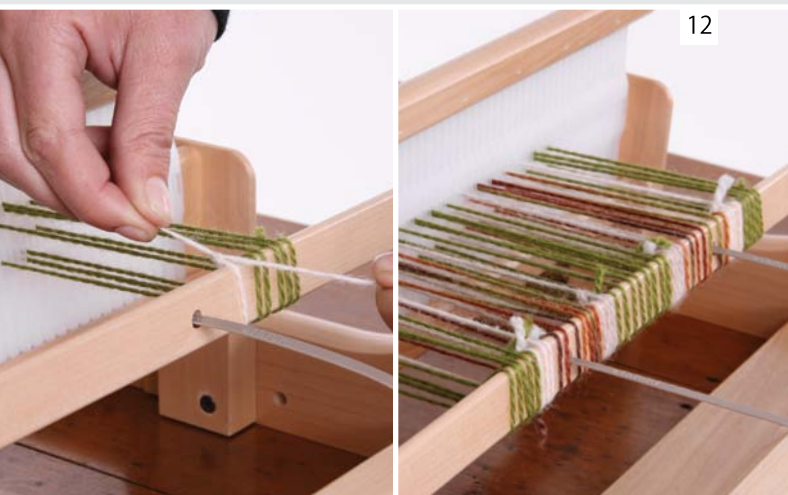
10

次の糸を取りにはたに戻ります。今回はワープスティックの下から糸を引き、それを前回の隣のすき間を通して、同じようにワーピングペグに引っかけます。



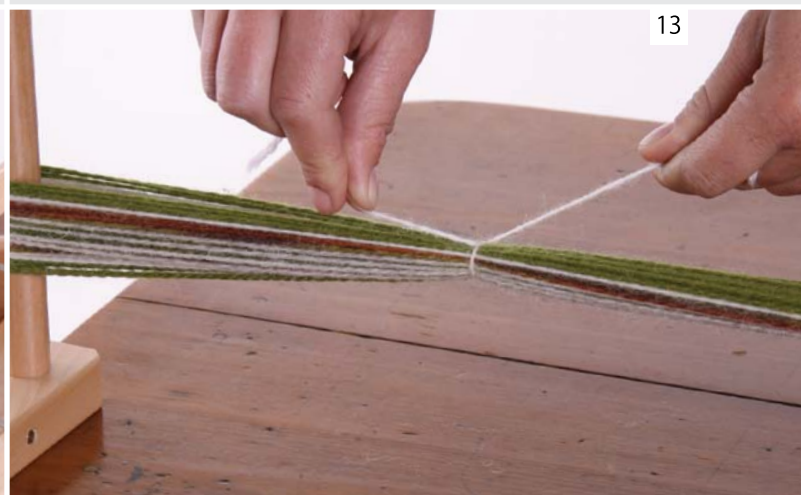
11

再びはたに戻って、今回はワーピングスティックの上から糸を引きます。このように、たて糸が必ずワーピングスティックを通るようにして、42のすき間全てに2本ずつの糸を通していきます。



12

糸の色を変えたい時は、それまでの糸を後ワープスティックに結んで切り、そこから新しい糸を始めます。糸の張り具合に注意して下さい。最後の糸も同じように、後ワープスティックに結んで終わらせます。



13

全ての糸を通したら、ワーピングペグ側の糸を束ねて結びます。15cmくらいの糸でしっかりと、また後でほどきやすい結び方で結んで下さい。





14  
ワーピングペグにかかっている糸を、全て切ります。



15  
切った方の束を誰かに持ってしてもらい、これから糸の張りを保ちながらローラーに糸を巻き取っていきます。  
\*1人の場合は、糸の束を一度肘に巻きつけながら後ローラーに近づき、そこで糸をおさの後ろに引き、張りを保ちながらローラーに巻き取ります。詳しくは、ホームページ [www.ashford.co.nz](http://www.ashford.co.nz) の tutorials をご覧ください。



16  
はたの後ろに立って、ワープスティックがローラーを1周するところまで、ハンドルを手前に回します。



17  
そして、次の週の始まりの糸が重なり合うところから、厚紙製のワープスティックを挟んでいきます。厚紙は、ローラーと同じ長さで、普通の紙をある程度厚く折り畳んだものでも構いません。





18

厚紙を次々に足しながら、ローラーを巻いていきます。上下の糸の間に厚紙を入れることによって、重なりあう糸同士がくいこんでしまうのを防ぎ、全体の糸の張りを均等に保ちます。



19

たて糸を束ねたところが、前ローラーを通り過ぎた辺りで巻くのを止めます。束ねてある糸をほどいた後は、もうそれ以上は巻かないようにして下さい。



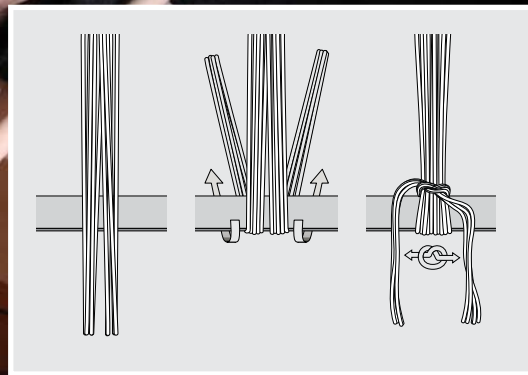
20

注意！強く引きすぎると糸が切れてしまいます。

一番左のすき間に通っている糸を2本とも持ち上げ、そのうち左側にある糸だけを慎重にそのすき間から引き抜きます。もう1本はそのままにしておきます。

引き抜いた糸は、糸通しの細い方でひっかけて、すぐ左隣の穴へと移します。これを繰り返して、最後にすき間と穴の全てに1本ずつ糸が通っているようにして下さい。

21



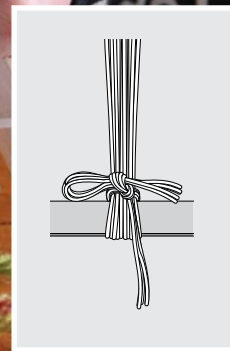
ローラーとワープスティックの間隔が、5cm位になるまでハンドルを回します。たて糸を8等分したら、真ん中の束から、右図の方法でワープスティックに結んでいきます。

22



すべての束を結んだら、全体の張りを均等にします。前ローラーを巻いて、ある程度糸を張り、張りが弱い束の結び目を結び直して調節していきます。

23



たて糸全体の張りが均等になったら、緩まないように片結びでしっかりと留めます。織りの作業で何かを結ぶ時は、後で必ずほどくこととなりますので、いつもほどこしやすい結び方を使いましょう。





おさを持ち上げて「上げ位置」に置きます。そうして開いたたて糸の間に厚紙を通して、まっすぐ手前に引き寄せます。そのままおさを「下げ位置」に移したら、再び厚紙を通して手前に引き寄せて下さい。



板ひによこ糸を巻きます。



再びおさを「上げ位置」に置いて、最初のよこ糸を通します。この時、よこ糸の端を5cmほど外に余らしておきます。



よこ糸を通す時は、斜め上に約20°の角度をつけて糸の長さを確保します。引っぱりすぎたり、短かたりすると、でき上がった作品の縁がつれてしまいます。



28



おさをゆっくりと手前に引きよせて、最初の段を打ち込みます。

29



おさを「下げ位置」に移して、最初に余らせておいた糸の端をたて糸の間に通します。

30



注意！打ち込みはやさしくします。  
段と段の間に余裕を持たせて下さい。

そのまま2段目のよこ糸を通して、打ち込みます。打ち込みはいつもやさしく、また段と段の間に少し余裕を持たせて下さい。今は目が粗く見えても、仕上げの時に縮んで密になります。

31



テーブルからはたを取り外し、ひざの上のせて座ります。はたの底面の切れ込みをテーブルの縁にかけて固定したら、これまでの作業を繰り返します。



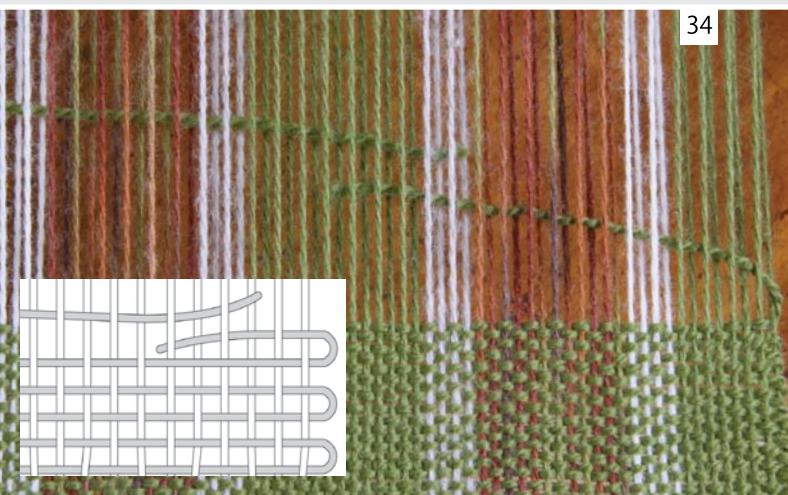
32

織った分とおさまでの間が、10cm位に近づいたら、それまで織った分を前ローラーに巻き取ります。まず、おさを一度「休み位置」に置いてから、後ブレーキを外し、後ローラーのたて糸を少し前に進めます。



33

必要なたて糸を進ませたら、再びブレーキをかけ、前ローラーのハンドルを回して、織り上がった分を巻き取ります。このようにしながら、たて糸がなくなるまで織っていきます。



34

途中で板ひに糸がなくなってしまうたら、新しい糸を巻いて続けます。糸を継ぐ時は、それまでの糸の終わりと新しい糸の始まりを、織りの中で重ねて打ち込みます。



35

後ローラーのたて糸がなくなってきたら、もうすぐでき上がりです。フリンジを付ける場合は、その分の長さを残しておきましょう。最後の段を打ち込んだら、最初と同じように、5cmほど余らせてからよこ糸を切ります。



36



たて糸を、後ワープスティックにそって切ります。この時、ワープスティック留めを切ってしまうないように気をつけて下さい。

37



おさからたて糸を引き抜いたら、前ブレーキを外し、作品をゆっくりとローラーから引き出します。

38



ワープスティックのたて糸を全てほどこき、厚紙を取り除いて、作品をはたから下ろします。

39



ワープスティックに結んであったひと束を、さらに4つに分けて、それぞれを図のように結んでフリンジにします。余らせておいたよこ糸の端は、かぎ針で織り目に編み込みます。



## 仕上げ

織り上がった作品は洗うと、糸が膨らんで、糸と糸のすき間がうまり、より仕上がりができます。

## 洗い方

ほんの少し洗剤を入れたぬるま湯にスカーフを浸し、軽く押し洗いをします。石鹼水を流し、きれいなぬるま湯ですすいで、干します。タオルの上に重ねて干すと折り目がつきません。まだ濡れているうちに柔らかい綿布をかぶせて、上から低温のアイロンで圧します。そして、今度は完全に乾くまで干します。

さあ、これで初めての手織りスカーフのできあがりです。

## テーブルが1つしかない時は...

テーブルにはたを固定して、イスにたて糸を巻いていく方法もあります。イスは真直ぐな背のものが向いています。



## 作業中のヒント

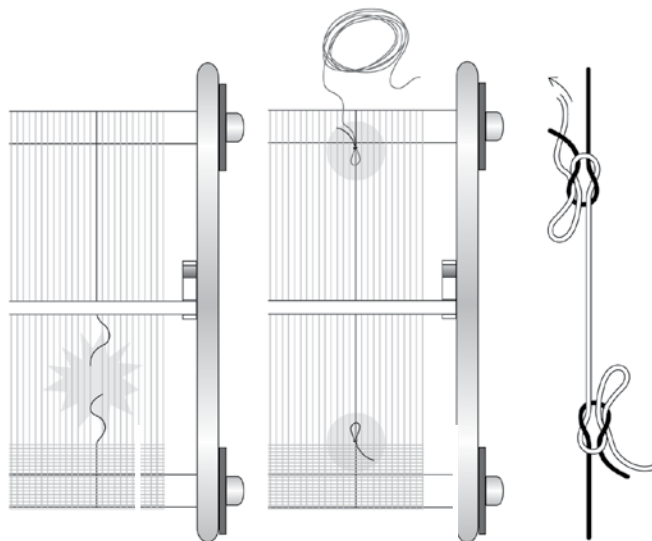
### 結び方

織る作業の中で結ぶ糸は、あとで必ずほどくこととなりますので、結ぶ時はいつもほどこやすい結び方にしましょう。

### 打ち込み

おさはいつもやさしく打ち込みましょう。織っている時にすき間が目立っても、はたから外して、張りがなくなると目は詰まります。また、洗い仕上げでも目はさらに詰まります。

### たて糸が切れた場合の継ぎ方



手織りに関する役に立つヒント  
やアイデアなどの詳しくは、ロ  
ウェナハート著 "the Ashford Book  
of Rigid Heddle Weaving"、"the  
Ashford Book of Weaving for Knitters  
(25 easy and exciting scarf patterns)"  
をどうぞ。

**ashford**  
WHEELS & LOOMS

Ashford Handicrafts Limited

工場&ショールーム: 415 West Street

P O Box 474, Ashburton, New Zealand

電話: +64 3 308 9087

ファックス: +64 3 308 8664

Email: [sales@ashford.co.nz](mailto:sales@ashford.co.nz)

ホームページ: <http://www.ashford.co.nz>

